

鶴岡浩樹¹⁾、鶴岡優子¹⁾、佐藤元美²⁾、五十嵐正
紘³⁾

1)自治医科大学地域医療学 2)国保藤沢町民病院

3)小山城北クリニック

【目的】民間療法利用者の情報源を調査することによって、利用するに至った伝達経路を確認し、その背景を考察する。

【方法】岩手県藤沢町で30才から79才の男女500名を無作為に選出し、1997年2月から4月までの期間、自記式郵送法にてアンケート調査を行った。民間療法の定義は、我が国において法的保護のない医療とした。従って、医師、鍼、灸、指圧、按摩、マッサージ、柔道整復師については除外した。漢方薬についても今回は除外項目とした。結果変数は利用した民間療法の種類とその情報源である。記述式で複数回答可能とした。

【成績】235通回収し(回収率47%)、有効回答は225通(有効回答率45%)であった。この内、民間療法利用者は75名(33.3%)。利用者の回答した種類145件に対して、情報源は166件あり、これについて解析した。結果は、家族のすすめが最も多く38件(22.89%)、次いで友人25件(15.06%)、雑誌18件(10.84%)、テレビ16件(9.64%)、知人11件(6.63%)、自発的11件(6.63%)であった。

【結論】民間療法の伝達経路は、身近な者からのすすめ、マスメディアからの情報、暮らしの中で自発的にはじめた事などが上位を占めた。したがって、民間療法の利用を決断する上で、各個人のおかれた環境、各々の価値観、思想などが大きな影響を与えていると示唆される。